

2018 年度
環境活動レポート

対象期間
2017 年 9 月～2018 年 8 月

2018 年 10 月 26 日

昭和ネームプレート株式会社

環 境 方 針

昭和ネームプレート株式会社は、事業活動において

① 地球環境の保全が人類共通の最重要課題であること

② 地域社会の環境保全が地域の発展及び共存の上で重要であることを認識

し、可能な限りの範囲で目標を定め、省資源、省エネルギー、

リサイクルを推進し、環境負荷に配慮した活動を実行します。

それらをふまえ下記に環境方針を定め継続的に改善します。

1. 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
2. 電気・ガソリン・ガス等のエネルギーの削減
3. 水資源の節水
4. 化学物質を正しく使用し管理する
5. 環境関連法規制等の遵守
6. グリーン購入の実施
7. 長期的に LED 照明の推進

2017年10月24日

昭和ネームプレート株式会社

代表取締役 大熊 浩和

事業活動の概要

- (1) 会社名 昭和ネムプレート株式会社
- (2) 代表者 代表取締役社長 大熊浩和
- (3) 設 立 1957年（昭和32）4月29日
- (4) 資本金 1,000万円
- (5) 事業内容 ネムプレート・パネル・ラベルの製造及び販売
「樹脂金属のプレス加工の製造および販売」については
レイクタウン工場拡大により、追加【2018年5月にEA21拡大申請済み】
- (6) 事業規模 年間売上 約487百万円（2018年度実績）
従業員 40名
- (7) 本社所在地 東京都荒川区荒川 6-52-10
TEL 03-3892-4221（代） FAX 03-3892-4222
- (8) 審査対象工場 昭和ネムプレート株式会社 埼玉工場
埼玉県越谷市蒲生 3882-1
TEL 048-988-7611（代） FAX 048-986-6261
E-mail sato@showa-np.com
レイクタウン工場【2018年5月にEA21拡大申請済み】
〒343-0825
埼玉県越谷市大成町 7-449-1
- (9) 工場規模 延面積 約1,089㎡
- (10) 環境管理責任者
代表者 代表取締役社長 大熊浩和
管理責任者 井口 忠久

環境目標とその実績

| | | | 2018年度 2017.9～ 2018.8 (目標) | 基準年度 2018年度 (実績) | 2019年度 2018.9～ 2019.8 (目標) | 2020年度 2019.9～ 2020.8 (目標) | 2021年度 2020.9～ 2021.8 (目標) |
|--------------|--------------------------------|-----------------------|---------------------------------------|------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| | | | | BM | (目標) | (目標) | (目標) |
| 二酸化炭素排出量削減 | 電力の削減 | 総量(kWh/年) | 107213 | 133602 | 133067.6 (0.4%) | 132666.7 (0.7%) | 132265.9 (1%) |
| | ガスの削減 | 総量(m ³ /年) | 1960.3 | 3133.1 | 3120.5 (0.4%) | 3132.4 (0.7%) | 3101.7 (1%) |
| | ガソリンの削減 | 総量(ℓ/年) | 10812.03 | 9734.93 | 9695.90 (0.4) | 9666.78 (0.7%) | 9637.58 (1%) |
| | CO ₂ の削減 (上記の合計) | 総量(t/年) | 90.048 | 89.66 | 89.30(0.4%) | 89.03(0.7%) | 88.76(1%) |
| 節水 | 総排水量削減 | 総量(m ³ /年) | 528.8 | 518 | 515.9(0.4%) | 514.3(0.7%) | 512.8(1%) |
| 廃棄物量の削減 | 一般廃棄物削減 | 総量(kg/年) | 570.8 | 545.0 | 542.8(0.4%) | 541.2(0.7%) | 539.6(1%) |
| | 産業廃棄物の削減 | 総量(kg/年) | 9997.2 | 10366.5 | 10325.0(0.4%) | 10293.9(0.7%) | 10262.8(1%) |
| | 段ボールの再利用 | 再利用率(kg/年) | リサイクル率 100% | リサイクル率 100% | リサイクル率 100% | リサイクル率 100% | リサイクル率 100% |
| グリーン調達の推進 | 事務用品等の購入 | | 現状購入品については少量であるが、長期にかけて100%を目指す。 | | | | |
| 長期的にLED照明の推進 | 消費電力の違いや電気料金の差額を調べる。 | | 各部の目標に向け、活動に繋げる。 2018年4月にLEDを導入した。 | | | | |

(電力：日本テクノ(株)2016年度調整後排出係数 0.447 (kg-CO₂/kwh) レイクタウン工場は東京電力(株)2016年度調整後排出係数 0.474 (kg-CO₂/kwh) の換算値を使用。)

- 1 Co₂ 排出量、産業廃棄物、一般廃棄物、総排水量は、ガイドライン改定に伴い 2018 年度実績を BM とし 0.4%とする。
- 2 中期目標は 3 年で-1%を目指して行く。2021 年度が終了した時点で中期目標の見直しをする。
- 3 この他に次のことに取り組みます。
 - ・化学物質を正しく使用し管理（棚卸し等）削減にむけて活動する。
 - ・레이크タウン工場は 2018 年度から正式に組織の中に組み込みます。
 - ・埼玉工場と레이크タウン工場(プレス部) の実績を合算し活動する。

環境目標・活動計画と評価

対象期間(2017年9月～2018年8月)までの目標とその実績についての計画と評価

| 取り組み項目 | | 達成状況 | 評価(結果と今後の方向) |
|----------------------|-----------------------|---|--|
| 二酸化炭素排出量の削減 | 電力・ガス・ガソリン等の削減 | B.M に対し+3.5% 達成 0.4%目標に対し 達成率 96% | 昨年度に続き今年度も未達成という結果に終わった。酷寒、酷暑によりエアコンの使用量が増加したことが主な要因と思われるが、対前年比-5.2%であることから、4月に蛍光灯をLEDに変更したことによる成果も出ているように思える。年々、CO2の削減は厳しくなってきたため、効率の良い電力使用を心掛けて活動していく。 |
| | 総排水量の削減 | B.M に対し-2.4% 達成 0.4%目標に対し 達成率 102% | 前年度は僅かなオーバーにより目標達成出来なかったが、毎作業時高い意識を持ち節水活動をした結果-2.4%の削減となった。来年度も効率の良い水使用を心掛け使用するときには使用し、控えるときは控えるというメリハリをつけて無理なく活動していきたい。 |
| 一廃棄物の削減 | 一般廃棄物の削減 | B.M に対し-4.9% 達成 0.4%目標に対し 達成率 104% | 目標数値に対し今期も目標達成する事が出来た。来期は今期の数値をBM値にする事で厳しくなる事が予測される為、引き続き高い意識を持ち活動していく。 |
| | 産業廃棄物の削減 | B.M に対し+3.2% 達成 0.7%目標に対し 達成率 96% | 今年度はBM値を変更した事により削減活動が厳しい一年であった。仕事量に伴い、産業廃棄物も増加する傾向にある為、不良の削減は勿論であるが、材料ロスの少ない面付けを徹底し、各部協力して削減活動していかなければならない。又、RPFとして再利用しており廃棄処分はしていない。 |
| 化学物質の使用と管理 | 使用化学物質の種類を把握し正しく管理する。 | 社内にあるインクや溶剤等の使用状況・保管量を把握する。 | 棚卸し等の管理を行い、今迄以上の管理が出来た。今期も有機溶剤を安全に、正しく使用していく。 |
| グリーン調達 の推進 | 事務用品等の購入 | 少量ではあるが目標に対し活動した。 | 長期にかけて100%を目指す。 |
| 長期的に LED照明の 推進 | 消費電力の違いや電気料金の差額を調べる。 | 社外からの情報提供依頼 | 各部の目標に向け活動に繋げる。 2018年4月にLEDを導入した。 |

(総評)年々削減が厳しくなっている中、今期はLED照明を導入した事は大きな取り組みであった。しかし、酷寒、酷暑の影響が大きくCO2の削減(対前年度比マイナス)が未達成になってしまったのは残念である。来期からは中長期的にエアコンの入替えを計画に盛り込む事でCO2の削減に繋げて行く。又、スマートクロックの増設を検討し更なる意識付を目指したい。産業廃棄物が未達成になってしまったが仕事量に影響される中、達成率として微増だった事は許容範囲内ではないか。これからは、無駄のない工程など工夫していないと削減していくのは厳しいだろう。総排水量は前年度、未達成から達成した事は作業時の意識付けの結果として評価出来る。来期も継続して削減に繋げていく。来期は、埼玉工場とレイクタウン工場を合算した数値で計算するのでBM値を見直し新たに目標設定をして活動する。又、2017年度ガイドラインの改訂に伴いそれに合わせた取り組みをして行く。

環境関連法の遵守状況

環境関連法規等にとっとり、遵守しています。

「埼玉工場・レイクタウン工場に適用とする環境関連法規一覧表」を基にその遵守状況を評価した結果、遵守していることを確認した。また、過去5年間にわたって違反や訴訟は1件も発生していません。

昭和ネームプレート株式会社埼玉工場

代表取締役社長 大熊浩和

管理責任者 井口忠久

2018.10.26

(代表者による評価及び見直し結果)

今期の大きな取り組みとして、蛍光灯のLED化を実施した。4月の導入後成果は出ていると判断するが、通年通してのCO₂削減の目標値には残念ながら未達に終わってしまっている。今年の猛暑・極寒や生産量が増加傾向にあることも未達の要因となっており、LED化だけでは目標達成が厳しいのが現実である。エコ意識は確実に高まっており、これ以上のエアコン使用の削減は作業環境的にも推奨できない。その点についてはエアコンの老朽化も見られる為、入れ替えの検討をしなければならない。未達の大きな要因は、生産量増加による残業時間の増加、機械設備使用時間の増加であり、今後は生産効率の向上がテーマである。又産業廃棄物削減の観点からも、材料ロスの少ない作り方の追究、不良削減活動(品質の向上・過剰品質の防止)が必要であり、シンプルなエコ意識に加え今後はモノづくりの見直しによるCO₂削減や廃棄物の削減に成果を出すことが要求される。ISO9001の取り組みと協働でCO₂や廃棄物の削減につなげることができる。また、EA21の2017年度版に改定になり、要求事項が細分化されている。廃棄物の細分化や、生産量等の計測も必要となっており、新たにBMを策定しなくてはならない項目も多々あり、来期は混乱することが予想される。自社のレベルに見合った活動が大切であるが、これを機にアプローチの仕方の変更を検討する機会でもある。たとえばCO₂や産廃の削減目標を生産量との対比にすることも可能である。廃棄物の分別細分化もよりいっそうの廃棄物削減意識に繋がることも予想され、2017年度版への変更を無駄にしない活動を展開したい。